

一般質問通告書

受領日時 令和8年8月26日

午前11時3分

10番 氏名 椎名 志保

質問項目	質問の要旨
1.学校給食の現状と今後	(1) 平成21年、地元の生産者グループが組織され、学校給食への米・野菜を中心とした地場産食材の納入が開始された。平成26年策定の「第2期 五城目町食育推進計画」では学校給食での地元産（町内産）野菜を使用する割合は、平成21年度23.8%、22年度27.1%、23年度29.4%、24年度37.9%、25年度41.4%であり、五城目産米活用割合は100%と記載されていた。 現在、地場産食材の納入率は、どうなっているか。 (2) 地元生産者グループが組織され、17年。地場産食材納入の現状はどういったものか。見えている課題をどうとらえているか。 (3) 去年は米価が上昇した。同時に学校給食に納入される米の値段も市場価格に見合ったものでなければならない。米の納入価格は、どう設定されているか。 (4) 地場産食材は不揃いであることが多く、調理に手間が増すことの理解や、アレルギー対応食の提供など、学校給食は調理員の細やかな気遣いのもと成り立っている。ですが、募集しても調理員の確保が難しく、また、中学校の調理設備も老朽化が著しいと聞く。今後の学校給食をどう維持していくか。
2.町の観光振興、どう進める	(1) 町長の公約では観光振興ととらえられるものとして「530年の歴史を誇る朝市を次代へ繋ぐため、積極的に活性化を図る」とあったが、町の観光振興として他にどういった考えをお持ちか。 総合発展計画では観光業の目指す姿として「自然・食・文化を通じ、交流人口が増えている」。施策の取り組み方針として「自然環境の活用、新たな観光資源の発掘や町全体で観光客をもてなす機運の醸成、地域の魅力向上を図る」。また、「町の魅力向上、交流人口増加の視点で、観光産業としての自立と交流の創出に努め、観光業の振興を目指す」としている。町長の思い描く町の観光振興の考えを問う。 (2) 令和4年度～7年度までの秋田県観光振興ビジョンの中で、当町は朝市から広がる暮らしを楽しむ“生活観光”、“暮らしから染み出てくる魅力のおすそ分け”をキーワードとし

	た“生活観光”を推進することがねらいとされ、県による生活観光セミナーや、ぶらり移住の旅といった企画が開催された。地域の普段の生活を体験してもらう、文化にふれてもらう“生活観光”は、まさに当町の観光のあり方ではないか。その後、“生活観光”の事業化を目指し活動する民間団体の動きもあったが、町は“生活観光”について、どういう考えを持っているか。 (3) 「近年、家具や革製品、木工や陶器など若い作家たちが生まれている。職人の町 五城目の復活ではないか。組子の建具や五城目箆笥、竹矢や弓具と併せた工房巡りなど、観光プランとして考えられないか」と提案したことがあった。「特定の業種を取り上げるのは公平性に欠ける」との答弁であった。 発展計画での観光の具体的な取り組みには、「事業所との連携により地域資源、宿泊施設等の既存施設との組み合わせによる周遊メニューの開発に取り組む」「周辺市町村及び各団体と連携を強化し、観光ルートづくり、PR 活動等、広域的な観光振興策を推進する」と謳われていた。具体的なプランニングなど、取り組んでいることはあるか。 (4) 役場前交差点、中央線入り口に立つ「よぐきてけだな五城目町さ」のモニュメントの老朽化が著しく、いずれ撤去されると聞いている。道路交通法が難しく、再設置は考えていないとのことであった。あのモニュメントも観光客を向かい入れる大事なおもてなしの風土を表す 1 つだったのではないか。 町のシンボルにもなり得る何かが必要ではないか。町長に考えはあるか。
3.農業経営継続支援事業の再検討を	(1) 農業経営継続支援事業として農業機械の導入・修繕に対し、補助事業が立ち上がった。当初予算の 2 倍を超える申し込み、また、購入 28 件、修繕 1 件の申込内容をどう分析しているか。 (2) 当初予算の 2 倍を超える申し込みに、今年度は 1,000 万円の増額補正で対応するとしているが、財源に予定していたふるさと納税がふるわない中、今後の財源確保をどう考えているか。 (3) 修繕の申し込みは 1 件に留まった。新たな農業機械の導入と修繕とでは、その意味合いに大きな違いがあるのではないか。農業機械の限界は離農のタイミングでもある。高

	齢の農業者にとってグループ作りも簡単なことではない。これまでこつこつ農業に取り組んできた農業者は、農地に愛着を持ち、丁寧な稲作で地域の農地を守って来られた方々だ。修繕の補助条件を緩和することは、そういった農業者への感謝を表す施策になり得るのではないか。施策の再検討の考えはないか。
4.ごみ収集場所の見直しを	(1) 高齢化が進み、指定されたごみの収集場所が遠く、決まった時間までの運搬が間に合わないなどの声が届いている。また、空き家が増え、従来の収集場所が必ずしも現在の住民の状況に合致しているといえない場所もあるのではないか。各町内会に呼びかけ実態を把握し、現状にふさわしい収集場所の見直しが必要ではないか。